

【経済トピックス】

沖縄県内における2008 - 09年シーズンのbjリーグ経済効果

- 経済効果は約16億2,500万円 -

【要旨】

日本プロバスケットボール（bjリーグ）の「琉球ゴールデンキングス」は、参戦2年目となる2008 - 09年シーズン（昨シーズン）に見事、日本一に輝いた。沖縄県内のプロスポーツチームとしては初めての全国制覇となる。

08 - 09年シーズンは県内で26試合が開催され、県内における観客数（プレイオフ含む）は約6万7,100人と前年より約2万4,600人増となった。そのうち県外からの観客数は約6,000人と前年より約1,000人増となった。

波及効果を含めた経済効果について沖縄県の産業連関表により試算した結果、08 - 09年シーズンの経済効果は約16億2,500万円となった。これは直接支出額11億700万円の約1.5倍の波及効果となっている。

経済効果16億2,500万円を業種別にみると、製造業の2億5,100万円が最も多く、次いで商業の2億3,900万円、金融・保険・不動産の1億8,100万円、その他対個人サービス1億5,900万円などとなっている。

08 - 09年シーズンの経済効果は、07 - 08年シーズンの経済効果7億8,400万円の約2.1倍となった。増加要因として、開幕当初より快進撃を続け優勝したことや参戦2シーズン目ということで県民に浸透してきたことにより、観客が増加したことなどが挙げられる。

bjリーグはこれらの経済効果のほかに青少年の健全育成に寄与するなど地域活性化に貢献している。今後、多くの県民の応援が、県内におけるプロスポーツチームの発展につながっていくものと考えられる。

1. はじめに

日本プロバスケットボール（bjリーグ）の「琉球ゴールデンキングス」は、参戦2年目となる2008 - 09年シーズン（昨シーズン）に見事、日本一に輝いた。沖縄県内のプロスポーツチームとしては初めての全国制覇であり、多くの県民に夢と希望を与えた。当社では、本県のプロスポーツの発展やスポーツコンベンションとしての取り組みを応援していること、前年に引き続き同リーグの08 - 09年シーズンの沖縄県内における経済効果について試算した。

2.2008 - 09年シーズンの概要

2008 - 09年シーズンは08年10月から09年5月にかけて開催され、52試合が行われた。そのうち琉球ゴールデンキングスのホームゲーム（県内での試合）は、26試合であった。琉球ゴールデンキングスは開幕当初より快進撃を続け、シーズン中の成績は41勝11敗の勝率7割8分8厘とリーグ最高勝率を樹立し、イースタン・カンファレンスで1位となった。その後、進出したプレイオフを勝ち進み、見事、日本一に輝いた。

県内での試合における観客数（プレイオフも含む）は、約6万7,100人と前シーズンの観客数約4万2,500人を2万4,600人上回った。そのうち県外からの観客数は約6,000人と07 - 08年シーズンを約1,000人上回った。増加要因として琉球ゴールデンキングスの快進撃により注目度が大きく高まったことや参戦2シーズン目ということで県民に地元チームである琉球ゴールデンキングスの存在が浸透してきたことなどが挙げられる。

また、優勝したことにより県内でアジアシリーズも開催され、韓国、台湾のチームとの対戦も行われた。



（試合の様子）

3.2008 - 09年シーズンの経済効果の試算

（1）直接支出額

経済効果の試算にあたって、まず、県内及び県外からの観客・選手による宿泊や飲食、交通費、娯楽レジャー、グッズ購入、優勝記念セールなどの直接支出額（消費額）を推計する。その他の支出として会場設営のための費用や広告費など興行関連の支出やチーム運営のための支出がある。これらの支出額を合計すると11億700万円となる。

（2）経済効果の試算

ここで、（1）で得られた直接支出額を産業別需要項目に区分し、沖縄県産業連関表を用いて県内各産業への波及効果も含めた経済効果を算出する。

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、（1）で求めた直接支出額に県内の自給率を掛けて算出した額が9億7,600万円となり、これが直接効果となる。

次に直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、会場設営費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービス等を提供している産業への売上増加へと波及していく。これを1次間接波及効果といい、これが3億6,400万円となる。

さらに直接効果、1次間接波及効果のように各産業へ波及した効果は雇用者の所得へと結びつき、これらの雇用者の所得が消費へと繋がり、消費を通して各産業の生産を増加させていく。これを2次間接波及効果といい、これが2億8,600万円となる。

これらの直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果であるそれぞれの生産誘発額を合計したものが、16億2,500万円となり、これが沖縄県内におけるbjリーグの2008-09年シーズンの経済効果となる。これは、直接支出額11億700万円の1.5倍の波及効果となっている。また、経済効果16億2,500万円の効果のうち、原材料やサービス等の仕入れを除いた分が粗付加価値(9億7,000万円)となり、この中で雇用者へ支払った賃金等が雇用者所得(4億7,100万円)となる(図表1)。

08-09年シーズンの経済効果16億2,500万円は、07-08年シーズンの経済効果7億8,400万円の約2.1倍となった。増加要因として、前述したように開幕当初より快進撃を続けたことや参戦2シーズン目ということで県民に浸透してきたこと、試合数の増加による観客増、優勝記念セールの効果などが挙げられる。



(応援の様子)

(図表1) 産業連関分析による経済効果の試算結果

	生産誘発額 (百万円)	粗付加価値 誘発額 (百万円)	雇用者所得 誘発額 (百万円)
直接効果	976	567	309
1次間接波及効果	364	217	86
2次間接波及効果	286	185	77
総合効果	1,625	970	471
直接支出額 (波及効果)	1,107	(1.5倍) = 総合効果/直接支出額	

- (注) 1. 直接効果は、直接の支出(消費等)による効果(県内での自給率を掛けて算出)。
 2. 1次間接波及効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。
 3. 2次間接波及効果は、直接効果、1次間接波及効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。
 4. 生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。
 5. 付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得と営業余剰)。

(3) 産業別の波及効果

本件の経済効果である生産誘発額 16 億 2,500 万円を産業別にみると、製造業(土産品や食料品を中心とした製造業)の 2 億 5,100 万円が最も大きく、次いで商業の 2 億 3,900 万円(お土産品、飲食の購入や優勝セール等)、金融・保険・不動産の 1 億 8,100 万円、その他対個人サービス 1 億 5,900 万円、飲食店 1 億 5,100 万円、宿泊業 1 億 4,900 万円などとなっている(図表 2)。

(図表 2) 産業連関分析による産業別経済効果の試算結果

産 業 区 分	生産誘発額 (百万円)	粗付加価値 誘 発 額 (百万円)	雇用者所得 誘 発 額 (百万円)
製 造 業	251	99	38
商 業	239	169	120
金 融・保 険・不 動 産	181	146	21
その他対個人サ - ビス	159	109	48
飲 食 店	151	69	43
宿 泊 業	149	76	42
そ の 他	265	160	92
合 計	1,625	970	471

4. その他の効果等について

まず、琉球ゴールデンキングスは開幕当初より快進撃を続け優勝したことから、多くの県民に夢と希望を与えた。また、優勝したことにより各メディアへ琉球ゴールデンキングスの活躍が掲載されるなど PR 効果も大きいものとみられる。

そのほかに、選手による小中学校の訪問やバスケットボールスクールの開催など地域の子ども達への健全育成に引き続き寄与したほか、公開練習の開催、地域イベントへの出演など地域活性化へも貢献している。

今後、bjリーグはスポーツコンベンションとして沖縄県の観光などの地域振興に引き続き貢献していくものと期待されており、併せて多くの県民の応援が県内におけるプロスポーツチームの発展につながっていくものと考えられる。



(小学生を対象としたバスケットスクール)

以上

【参照】：琉球ゴールデンキングスの今シーズンのホーム（沖縄県内）での試合日程

日程		開始	対戦チーム		会場
2009年 10月	10(土)	19:00		大阪エヴェッサ	沖縄コンベンションセンター
	11(日)	14:00			
	17(土)	19:00		滋賀レイクスターズ	那覇市民体育館
	18(日)	14:00			
	31(土)	19:00		京都ハンナリーズ	那覇市民体育館
11月	1(日)	14:00			
11月	21(土)	19:00		大阪エヴェッサ	沖縄コンベンションセンター
	22(日)	14:00			
	12月	12(土)	19:00		大分ヒートデビルズ
13(日)		14:00			
2010年 1月	2(土)	19:00		埼玉ブロンコス	那覇市民体育館
	3(日)	14:00			
2月	6(土)	19:00		ライジング福岡	沖縄コンベンションセンター
	7(日)	14:00			
	20(土)	19:00		新潟アルビレックスBB	うるま市具志川総合体育館
	21(日)	14:00			
3月	6(土)	19:00		浜松・東三河フェニックス	沖縄コンベンションセンター
	7(日)	14:00			
	13(土)	19:00		高松ファイブアローズ	21世紀の森体育館
	14(日)	14:00			
	27(土)	19:00		大分ヒートデビルズ	宜野湾市立体育館
	28(日)	16:00			
4月	10(土)	19:00		ライジング福岡	沖縄コンベンションセンター
	11(日)	16:00			
	24(土)	19:00		高松ファイブアローズ	那覇市民体育館
	25(日)	19:00			

【補注】：本調査でを使用した産業連関表について

今回の調査では、県が作成した2000年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類75部門表をベースにしたが、75部門表では「宿泊業」や「飲食店」、「航空輸送」、「陸運」、「海運」、「貸自動車業」等の部門が明示されていないので、これらの産業部門については、基本表(514行×402列)から該当する業種を抽出、統合して産業連関表の中に明示した。分析に際しては、今回の分析において多少統合しても不都合がない部門を当社で統合し、41部門表に組み替えて使用した。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要(=県内居住者の需要)に対する自給率であるため、移輸出(=非居住者の需要)は対象外となる。このため、統計上、移輸出である「県外からの滞在者の支出(=非居住者の需要)」の経済効果を試算する際に、そのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要(県外旅行等を含む)のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きいため、県内宿泊業の自給率は極めて低くなる。しかし、関連支出額の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに100%とみられる宿泊業、飲食店、などについては自給率を100%に設定し直して使用した。

なお、宿泊業は産業連関表の部門表では「旅館・その他の宿泊所」となっているが、ここでは「宿泊業」の呼称を用いる。また、産業連関表における商業部門は売上高ではなく商業マージン部分が計上され、運輸業も取扱高ではなく運輸マージン部分が計上されることに留意する必要がある。

生産誘発額を求める式は以下のとおりである。

$$X = \{ I - (I - M)A \}^{-1} (I - M)F$$

X：各産業部門の財・サービスの生産額

I：単位行列

M：県内需要に対する移輸入係数(対角行列)

A：投入係数(行列)

$\{ \}^{-1}$ ：逆行列

F：最終需要額(直接支出額)

X(生産額)が、F(最終需要額)に対応する生産誘発額となる